

経営比較分析表（平成29年度決算）

山口県萩市 市民病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	10	対象	ド透訓	救へ輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
48,722	9,722	第2種該当	7：1	

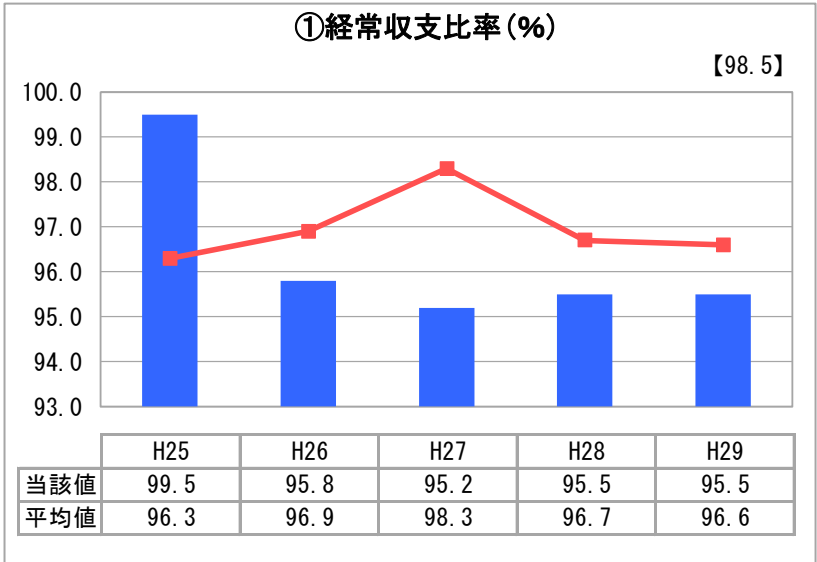
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

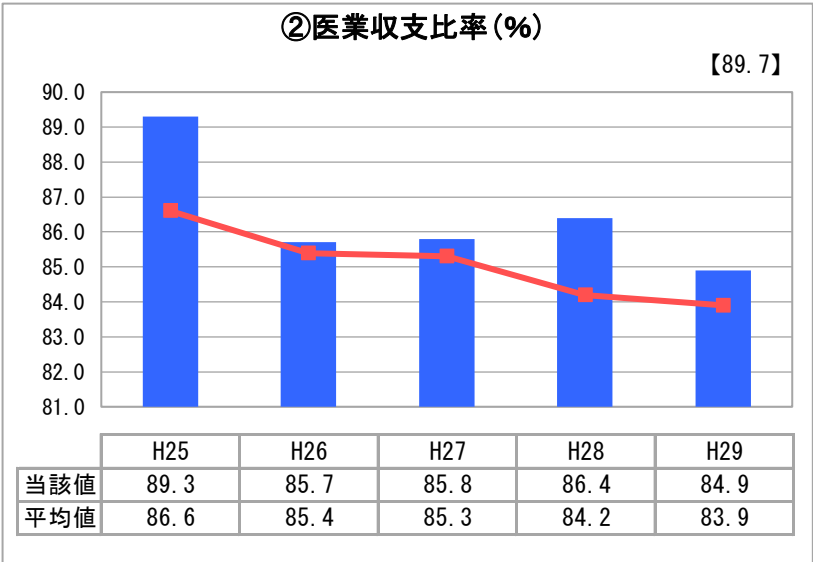
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
100	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	100
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般＋療養）
100	-	100

■ 当該病院値（当該値）
— 類似病院平均値（平均値）
【】 平成29年度全国平均

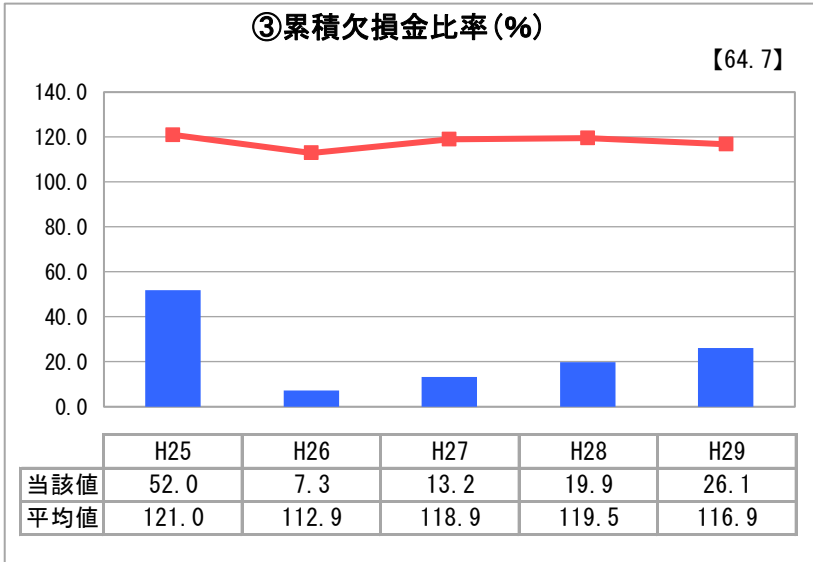
1. 経営の健全性・効率性



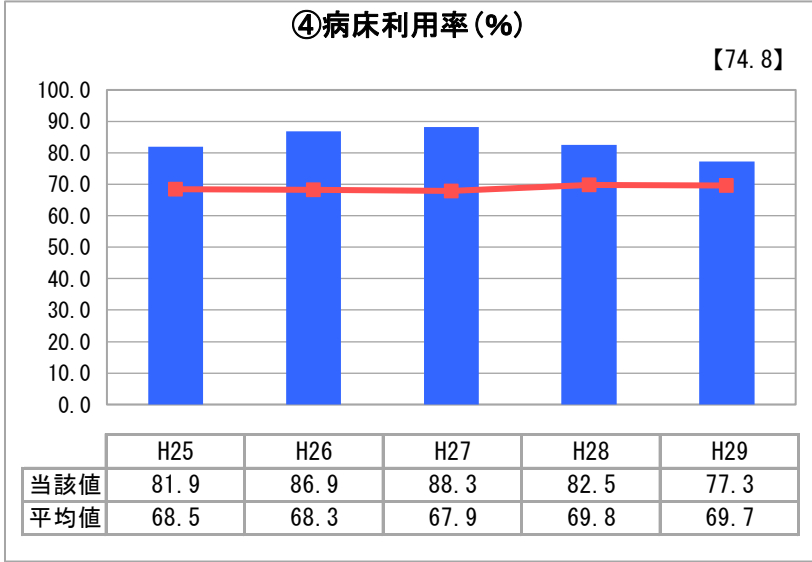
「経常損益」



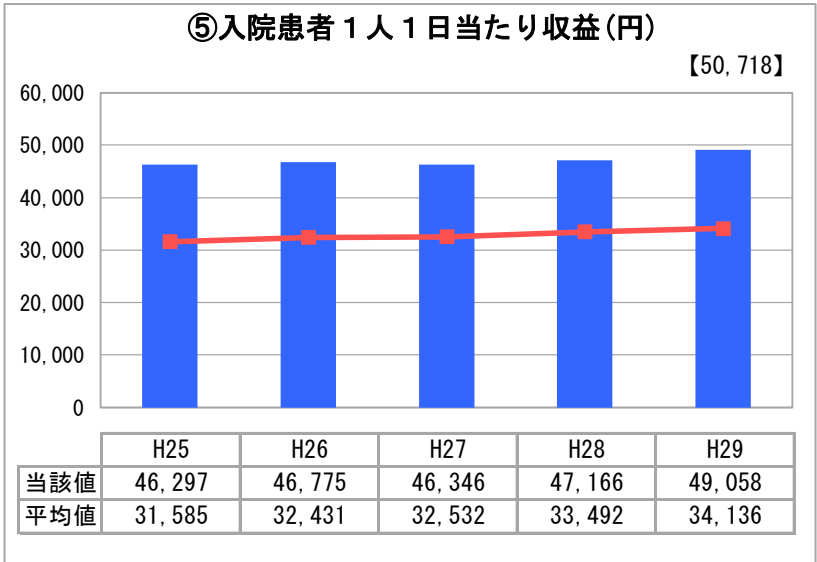
「医業損益」



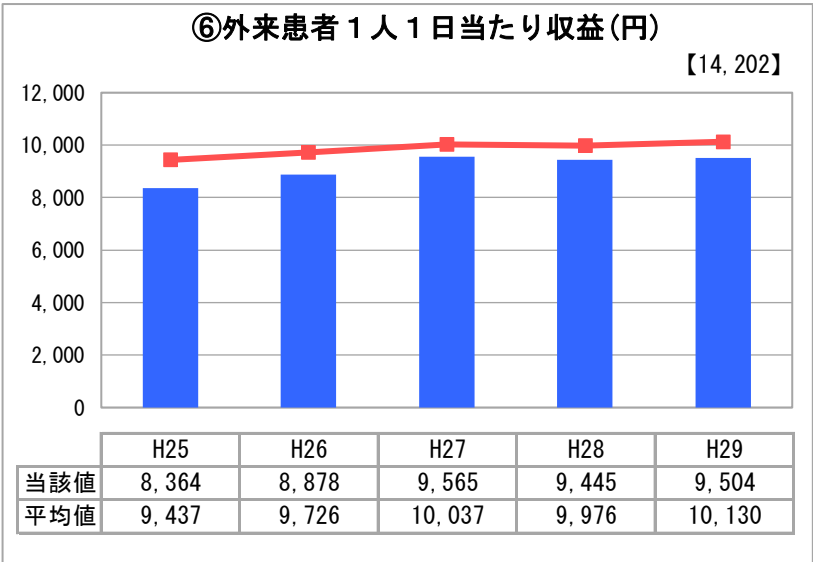
「累積欠損」



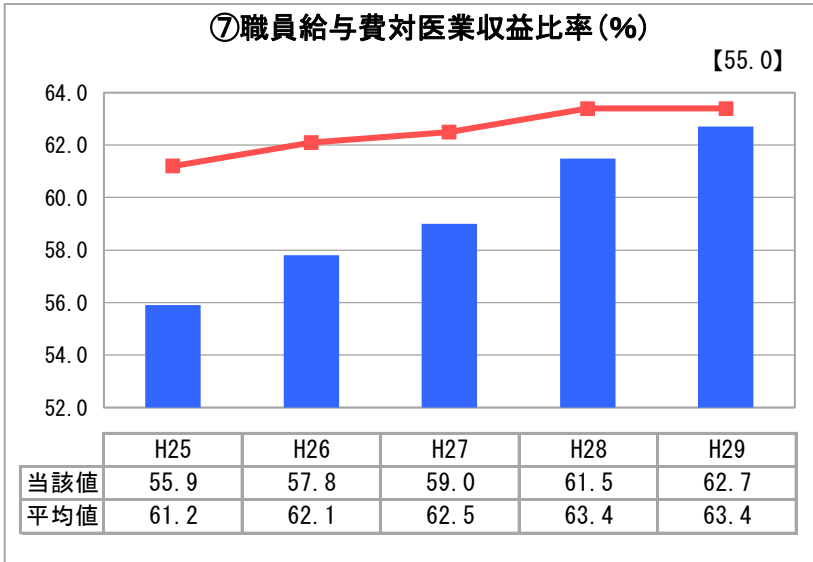
「施設の効率性」



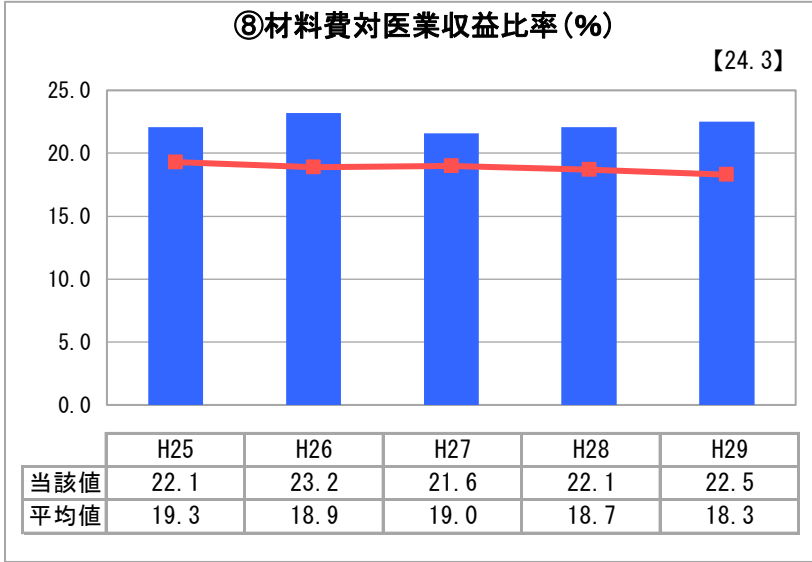
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

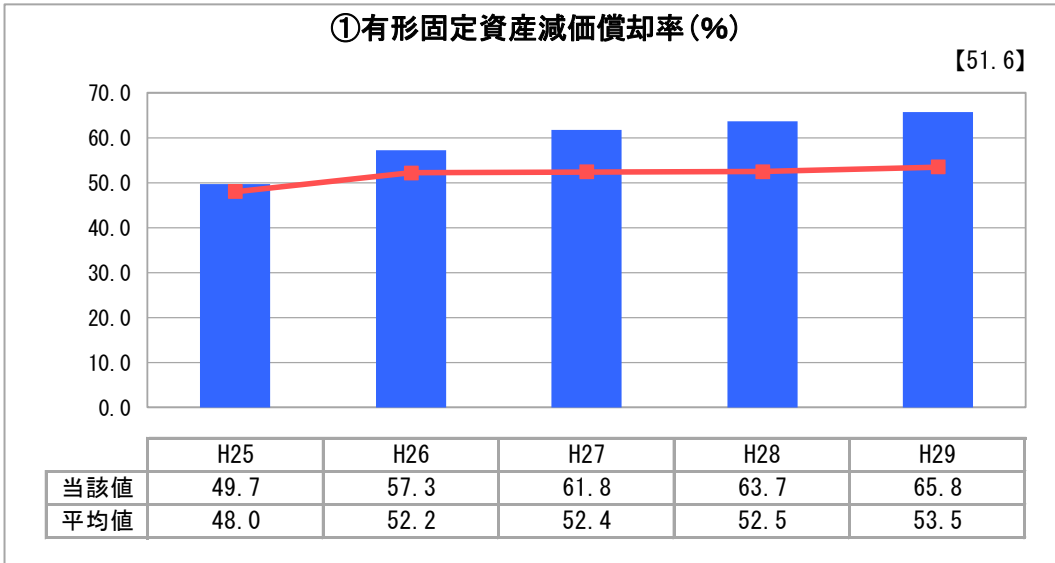


「費用の効率性①」

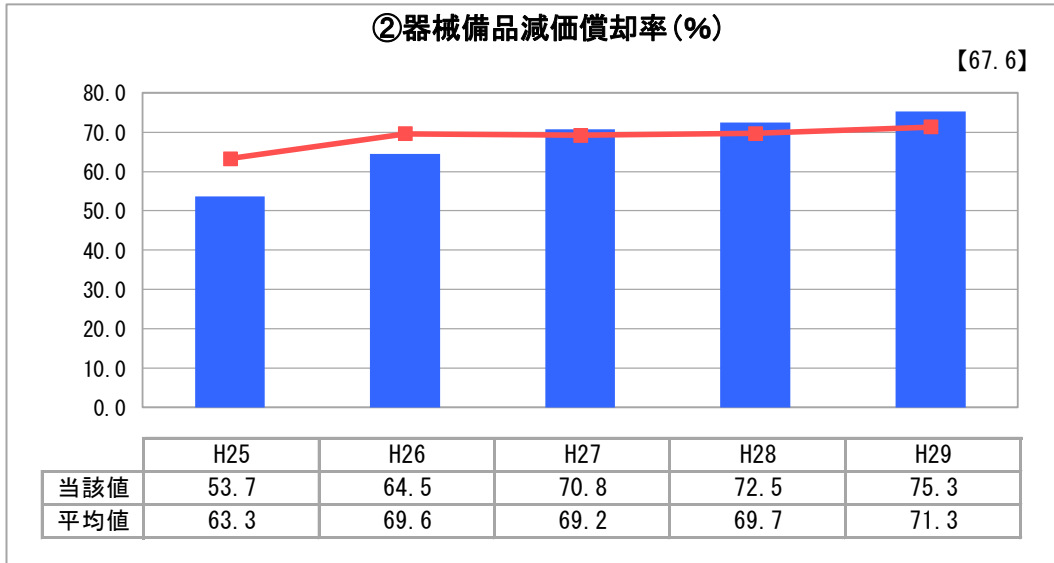


「費用の効率性②」

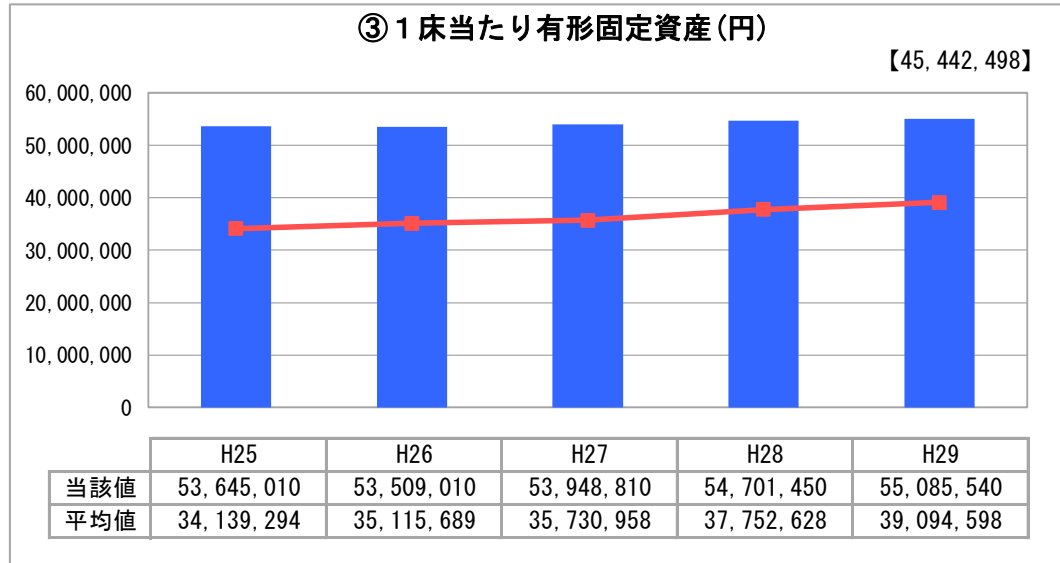
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「器械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

I 地域において担っている役割

当院は、北浦地域において唯一の公立病院として、急性期医療を担っている。具体的には、病院群輪番制による救急医療を担うとともに、萩地域で唯一入院施設を有する小児科及び急性冠症候群については、24時間体制で受け入れを行っている。また、へき地医療拠点病院として離島の公立診療所の診療支援（代診や遠隔画像診断システム）を行うとともに、CTやMRIなどの医療機器について共同利用も行っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

医業収支比率、病床利用率ともに類似病院平均値を上回っているが、医業収益が平成27年度をピークに減少している。平成27年度末で、総合診療科医師が不在となったこと、当院に勤務していた医師2名が市内にて開業したこと等が要因と考えられる。入院単価は年々増加傾向にあるが、病床利用率の低下を補うことができていない。さらに人件費は年々増加しており、職員給与費対医業収益比率は増加を続けている。診療材料の購入価格の引き下げに努めるなど更なる経費節減に努め、さらに医業収益の改善のために入院患者増加につなげるよう、外来患者数の増加への取り組みなどが必要と考える。

2. 老朽化の状況について

平成12年の開院から既に17年が経過しており、有形固定資産減価償却率も年々増加し、類似病院平均値を10ポイント以上上回るなど施設の老朽化が進んでいる。今後、空調設備の更新（H31～H33）、屋根・外壁の改修（H31～H34）などを計画的に実施する予定である。器械備品減価償却率が平均値を上回っているが、これは、耐用年数の1.5～2倍の使用を想定し、保守等を充実して延命化を図っている結果であり、今後も計画的な更新に努める。

全体総括

萩医療圏域における少子化や人口減による患者の減少が医業収益減少の一因となっている。このような状況の中でも自治体病院として救急や小児科等の不採算医療を担っていかなければならない。

このため、萩市民病院事業新改革プラン及び地域医療構想の内容に基づき、病床機能の分化・連携の推進、在宅医療の推進、医療従事者の確保といった施策を推進していく。更には、地域内の医療機関の再編・ネットワーク化、経営形態の見直しなどについても調査・検討を行う。

※ 「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。